

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シュウエール新松戸 第1教室		
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日	～	令和8年4月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日	～	令和8年4月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多種多様な集団活動を準備している	5領域を基に子どもたちの苦手なことや得意なことを織り交ぜながら、活動の準備を行なっている。また、SSTを取り入れ、対人関係スキルの学習を行なっている。	子供たち一人一人の“できた”や“できる”に着目し、自己肯定感や成功体験が高まるような声掛けを実施していく。
2	教材研究を行い、個人にあった教材を提供している。また、土曜日にはダンスお芝居の活動を実施。	職員で個々の学習内容を共有し、個々にあった教材を可視化し、提供している。集団授業では、学習要素や自己表現ができる内容を提供している。	「遊び+活動+発達特性に応じた支援+学習」を合わせたプログラムが考案できるよう、専門性の向上を図るための職員研修等を毎月実施している。
3	専門職(作業療法士)がいる。	作業療法士監修のもと、個々に必要なスキルや知識を職員へ共有し、遊びや活動の中で継続的な支援ができるよう努めている。	作業療法士による研修を実施し幅広い知識やスキルを習得し支援に繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	場所が2階である。	外階段を利用しなければ事業所に入れないため、バリアフリーではないか。	階段昇降時には必ず職員を配置し、転倒・転落防止を図る。
2	部屋が狭い。	学習支援があり、机と椅子を配置している環境であることもあり、環境を調整しても身体を動かすにはやや部屋が狭く、運動の制限が出て来てしまう。	近隣の公園や公共施設(すまいる等)などの広い場所に移動し身体を動かす活動を実施する。
3	職員の経験の未熟さ	福祉・療育の経験のない職員が多く、臨機応変に対応することやパニックになった際等の対応ができる職員が偏ってしまう。	社内研修を定期的に行い、療育や対応方法を学ぶ。また、社外研修の案内を随時し、自己研鑽できるように環境を作っていく。